

授業改善推進プラン <社 会 科>

(社 会) 科における令和3年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・「社会的事象への関心・意欲・態度」については、地図や視覚的資料、デジタル教材を活用することにより、生徒の授業内容への関心を高めることに取り組んだ。第3学年では一定の成果がみられたが、第2学年では成果が不十分であった。
- ・「社会的な思考・判断・表現」については、白地図や様々な資料を活用し、諸地域の特色や産業の特色を多角的・多面的に捉える作業や、各時代や歴史的事象のおおまかな流れを捉え、自分の言葉でまとめる作業を授業内で増やした。第2、3学年ともに一定の成果がみられた。
- ・「資料活用の技能」については、地理においては地図帳や視覚的資料・デジタル教材を活用し、地図を見ながら重要事項の意味と場所を学習する授業を展開したことや、歴史的資料とデジタル教材とさらに地図帳などの地理的資料をあわせて併用して歴史的事象のおおまかな流れをまとめることにより、「資料活用の技能」を高めることに取り組んだ。第3学年では一定の成果がみられたが、第2学年では成果が不十分であった。
- ・「社会的事象についての知識・理解」については、プリントやデジタル教材を活用した授業内での演習や小テストを繰り返し行い、知識の定着を図った。第2、3学年ともに一定の成果がみられた。

(社 会) 科における調査結果の分析

内 容 別 結 果 の 分 析	<p>○社会科全体の平均正答率は、第1学年では目標値より7.0ポイント上回っているが、第2学年は0.8ポイント下回っている。そして、第3学年では2.3ポイント上回るという結果が出ている。</p> <p>○地理的分野において、第1学年のすべての領域で目標を上回っている。第2学年は「世界の地域構成」「世界各地の人々の生活と環境」では目標値より上回っているが、「世界の諸地域」「日本の地域構成」では目標値を下回っている。第3学年の「身近な地域の調査」では目標値を上回っているが、「世界と比べた日本の地域的特色」「日本の諸地域」では目標値を下回っている。</p> <p>○歴史的分野において、第1学年から第3学年のすべての領域で目標値を上回っている。</p>
観 点 別 結 果 の 分 析	<p>○第1学年は、新学習指導要領の観点での調査結果となっている。目標値からみると「知識・技能」は6.5ポイント上回り、「思考・判断・表現」は8.1ポイント上回り、「主体的に学習に取り組む態度」は5.1ポイント上回っている。</p> <p>○第2、3学年は旧学習指導要領の観点での調査結果となっている。分析は以下の通りである。</p> <p>○「社会的事象への関心・意欲・態度」は目標値からみると、第2学年は2.9ポイント上回り、第3学年は7.1ポイント上回っている。</p> <p>○「社会的な思考・判断・表現」は目標値からみると、第2学年では4.6ポイント上回り、第3学年では4.5ポイント上回っている。</p> <p>○「資料活用の技能」は目標値からみると、第2学年では0.1ポイント上回り、第3学年では0.5ポイント上回っている。</p> <p>○「社会的事象についての知識・理解」は目標値からみると、第2学年は2.0ポイント下回り、第3学年は2.3ポイント上回っている。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学年：既習事項の復習とグラフや表などの資料の読み取りに力を入れ、「知識・技能」の向上を図る。
- 2 学年：「世界の諸地域」「日本の地域構成」の領域の理解度と「知識・理解」を高めるために、今後の学習内容で関連する内容のある場面で、世界・日本の各地域の特色を復習させる。
- 3 学年：グラフや表の読み取りと諸資料を使用した作業を取り入れた授業改善に力を入れ、「資料活用の技能」の向上を図る。また、「世界と比べた日本の地域的特色」「日本の諸地域」の理解度を高めるために、今後の学習内容で関連する内容のある場面で、地域的特色の理解度の向上を図る。

(社 会) 科の授業改善策

- ・全学年の授業を通して、I C T機器を活用したり、模型や地図などの資料を効果的に提示したりすることで、生徒の意欲・関心を高められるように工夫する。各分野における重点項目は以下の通りである。
- ・地理：小テストや発問を通して、既習事項の復習をくり返し行い、基礎・基本の徹底を図る。地図やグラフなど様々な資料を活用して、読み取ったことを自分の言葉でまとめ、発表する場面を増やし、世界の諸地域の特色を多角的・多面的に捉えるための授業を実践する。また、諸地域の気候、地形、産業、文化、歴史の関連を理解できるように、授業展開を工夫する。
- ・歴史：小テストや発問を通して、既習事項の復習をくり返し行い、基礎・基本の徹底を図る。また、各時代の特色を捉え、前後の時代との比較を行い、それぞれの時代との違いやつながりを理解させることで、歴史のおおまかな流れを捉えるための授業を実践する。
- ・公民：日本国憲法の条文を確認しながら、生徒たちに身近な事柄との関連を理解させることで、「主体的に学習に取り組む態度」を高める。また、既習事項の復習を授業内でくり返し行うことで、基礎・基本の徹底を図る。